

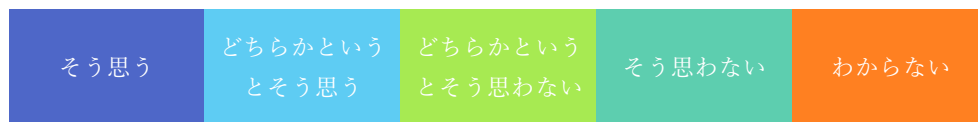
令和7年度 学校教育活動点検アンケート結果と分析の報告

12月に実施しました学校教育活動点検アンケートの結果とその分析を報告いたします。

今年度の教育活動について、「学校生活について・中学生としての規律」に関する質問と、「学校経営目標」の4つの柱「心通い合う人間関係と豊かな人間性の育成」「確かな学力が身につく学習活動の推進」「心身ともに健康で逞しく生きる生徒の育成」「地域から信頼される魅力ある学校づくり」の視点からアンケートを作成し、生徒・保護者・教職員に質問しました。その結果を分析し今後の教育活動に生かせるよう検討しました。



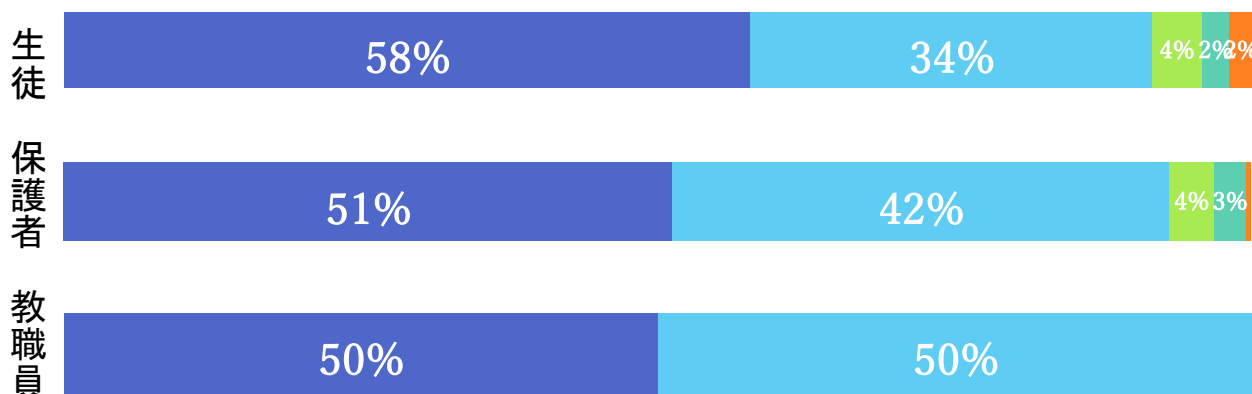
・グラフの見方



「学校生活・中学生としての規律」に関して

①学校生活の満足度

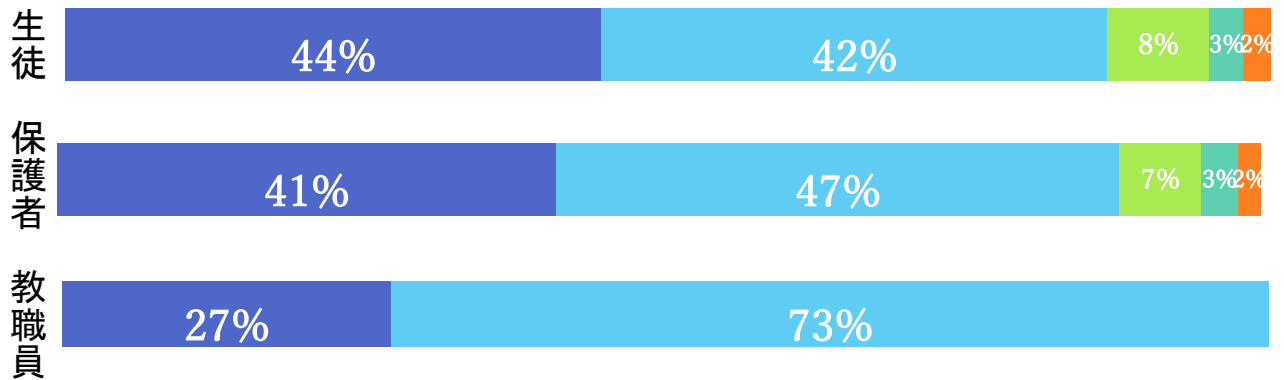
生徒	保護者	教職員
自分にとって、学校での生活は楽しく充実している	お子さんは、学校で楽しく充実した生活を送っている	生徒の、学校での生活は楽しく充実している



「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が92%で、昨年度より2ポイント増加しました。ほとんどの生徒が学校での生活を楽しく充実して過ごすことができています。また、保護者の「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している割合も昨年と同様で93%で、安心して生徒を学校にあずけていただいていると感じられます。一方、教職員は、「そう思う／どちらかといえばそう思う」という回答が100%であるにもかかわらず、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した生徒が6%もいることに大きな課題を感じます。「ひとりも取り残さない」教育の実現に向け、生徒全員が充実した学校生活ができるようにしていきたいと思います。

②学校での居場所

生徒	保護者	教職員
自分は、クラスの中で安心して気持ちよく生活することができる	お子さんは、クラスの中で安心して気持ちよく生活している	生徒は、クラスの中で安心して気持ちよく生活できている

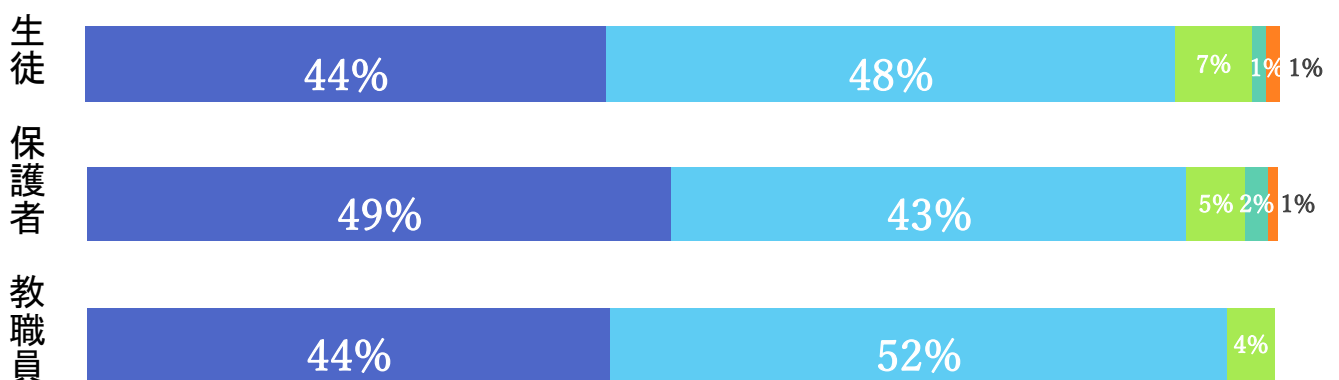


「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が86%で、昨年度より4ポイント減少しました。また、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した生徒は昨年度より4ポイント増加し、11%となりました。一方、すべての教職員が「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答していて、生徒はクラスの中で安心して生活を送っていると認識しており、このことから生徒の心情をより確かに把握する必要があると思います。この2年間人権尊重教育の充実を図って教育活動を行ってきた中で、多くの生徒が満足感がある一方、そう思うことができていない生徒も多く存在することは大きな課題となります。

本校の目指す学校像の1つに「生徒が安心して過ごせる学校」を掲げています。安心して生活ができる大きな要因は人間関係づくりにあります。来年度以降も共生*共育プログラムの授業に力を入れ取り組み、さらに教育相談の充実も継続的に図っていき、さら人権尊重教育に注力し、より一層生徒一人一人の気持ちを理解し、全員が安心して学校生活が送れるように人間関係づくりを行っていきたいと思います。

③ルール・マナー

生徒	保護者	教職員
自分は、正しい服装を心がける・時間を守るなど、学校生活に必要なルールやマナーを守って生活している	お子さんは、正しい服装を心がける・時間を守るなど、学校生活に必要なルールやマナーを守って生活している	自分は生徒に、正しい服装を心がける・時間を守るなど、学校生活に必要なルールやマナーを守るよう指導している

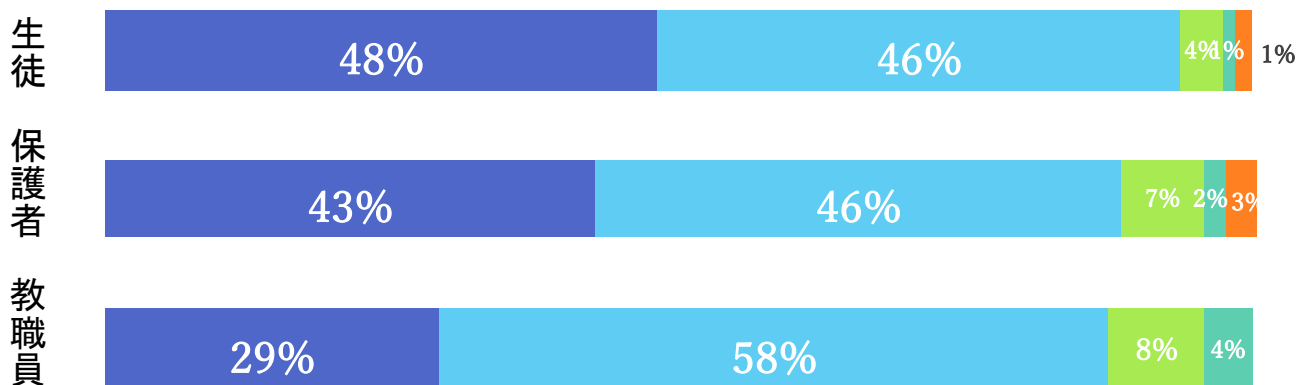


「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が92%で、ルールやマナーを意識して学校生活を送っていることが分かります。生徒の自由回答からも「安全に生活ができる」「ルールを乱す生徒が少ない」などの記述が目立ち、生徒たちが自分たちの規範意識の高さを自負していることが分かります。

学校生活の約束事を生徒自身が作り、それを大切に行動することができる生徒の育成に今後も注力していきたいと思います。

④あいさつ・ことばを大切に

生徒	保護者	教職員
自分は、おはよう・こんにちはなどの挨拶をするよう心がけている また、時・場所・相手に応じた丁寧で正しい言葉遣いを心がけている	お子さんは、おはよう・こんにちはなどの挨拶をするよう心がけている また、時・場所・相手に応じた丁寧で正しい言葉遣いを心がけている	生徒は、おはよう・こんにちはなどの挨拶をしている また、時・場所・相手に応じた丁寧で正しい言葉遣いをしている



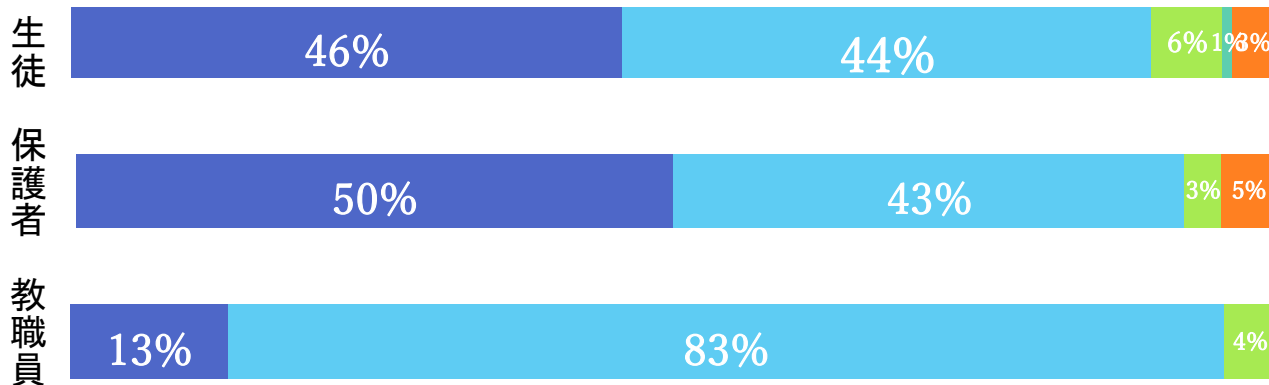
「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が94%で昨年より2ポイント増加しました。生徒の自由回答からも学校の良いところとして「あいさつができる」「あいさつがさかん」などの記述が多くありました。

今年も生活委員会があいさつ運動ののぼりの下で、毎朝笑顔であいさつ運動を行って来ています。生徒会が中心となって様々な活動を行い、本校の誇りである「あいさつが盛んな学校」をさらに進めていきたいと考えます。

「心の通い合う人間関係と豊かな人間性の育成」に関して

⑤仲間を認める

生徒	保護者	教職員
自分は、人の悪口を言ったりいじめをしたりせず、友達の良いところを認めることができる	お子さんは、人の悪口を言ったりいじめをしたりせず、友達の良いところを認めることができる	生徒は、人の悪口を言ったりいじめをしたりせず、友達の良いところを認めることができる

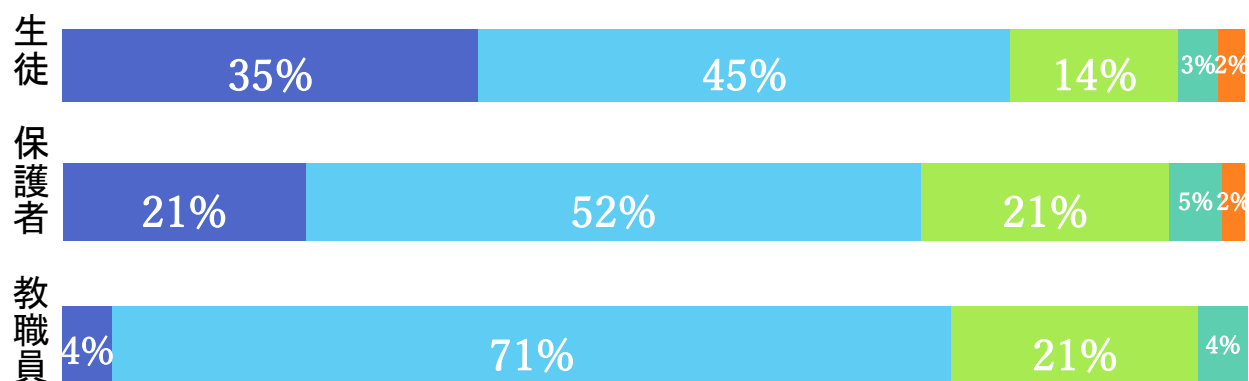


「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が90%、保護者は92%で、高い水準をキープしています。その一方、教職員は「そう思う」の回答がわずか13%しかおらず、また「どちらかといえばそうは思わない」の回答も4%あり、仲間を認め合うことが大きな課題であるにとらえていることが分かりました。

2年間人権尊重教育を進め、自分らしく生活することの大切さや、人の良いところを認め合う態度の育成に力を注いできただけに大変残念な結果です。来年度の学校運営の重点目標の1つに設定し課題解決に向け教育活動を充実させていきます。

⑥自己の考えと表現

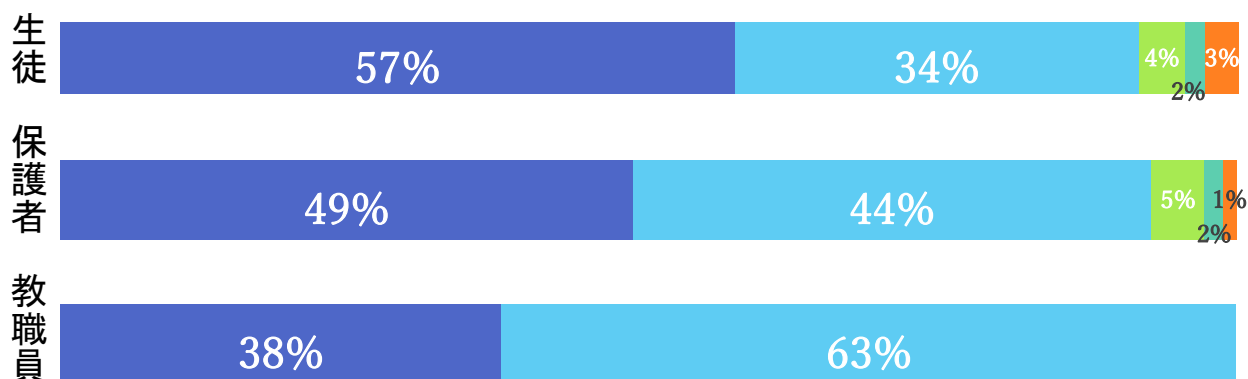
生徒	保護者	教職員
自分は、自分の意見や考えを持ち、それをはっきりと述べるができる	お子さんは、自分の意見や考えを持ち、それをはっきりと述べるができる	生徒は、自分の意見や考えを持ち、それをはっきりと述べるができる



「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が昨年と同様の80%でした。保護者は73%で昨年より3ポイント増加しましたが、他の質問項目に比べて割合が下回っています。一方、「そう思う/どちらかといえばそう思う」と回答している肯定的な見方をしている教職員は75%で昨年度より28ポイントも増加しました。生徒が自信をもって発言行動することができるようになることを目標に教育活動を行ってきた中で生徒の変容を感じとった教職員が多かったようです。取組を継続し、生徒が自分に発言や行動に自信がもてるようにしていきたいと思ひます。

⑦人間関係形成

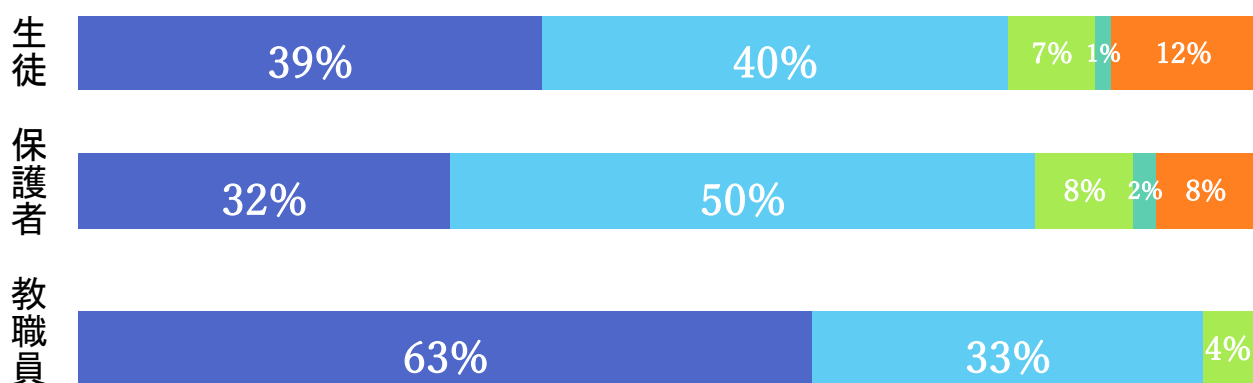
生徒	保護者	教職員
自分は、学級活動・行事など様々な場面を通じて、友達とより良い関係を作るようにしている	お子さんは、学級活動・行事など様々な場面を通じて、友達とより良い関係を作るようにしている	生徒は、学級活動・行事など様々な場面を通じて、友達とより良い関係を作るようにしている



「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が91%いて、生徒が他と協力して学級活動や行事に取り組んでいたことが分かります。教職員は回答した全職員が「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答していることから、学級活動や学校行事で生徒同士がお互いに良い関係を作るように努力していることを評価していることがうかがえます。

⑧自己肯定感・自己有用感

生徒	保護者	教職員
自分は、友達や先生から自分の頑張りや良いところが認められている	お子さんは、友達や先生から自分の頑張りや良いところが認められている	生徒は、友達や先生から自分の頑張りや良いところが認められている

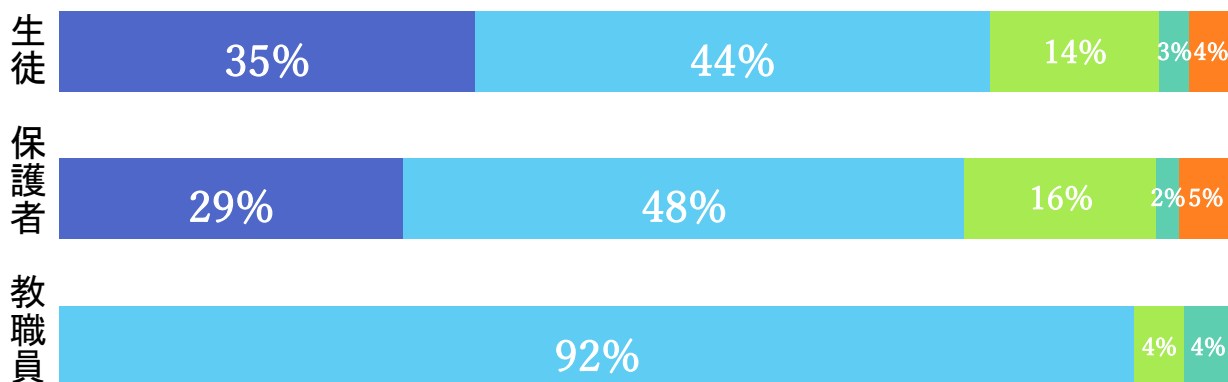


自己肯定感・自己有用感は今年度本校が育成したい資質・能力の1つです。人権尊重教育の柱として、また共生＊共育プログラムの効果的な活用や、授業中に協働的な学びを多く取り入れ、他者を良いところを認め合う活動に注力しています。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が79%で、昨年度よりも3ポイント減少しました。しかし、96%の教職員が肯定的な回答をしていて、取組に手ごたえを感じているように思えます。一方、「わからない」と答えている生徒が昨年より5ポイント減りましたが、依然12%もあり、他者が自分の良いところを認めてくれているか自信がないと感じているようです。

今年度の活動を継続して行い、さらに自己肯定感・自己有用感の育成を図っていきたいと思います。

⑨自己実現

生徒	保護者	教職員
自分は、何事に対しても目標を持ち、それに向かって努力している	お子さんは、何事に対しても目標を持ち、それに向かって努力している	生徒は、何事に対しても目標を持ち、それに向かって努力している



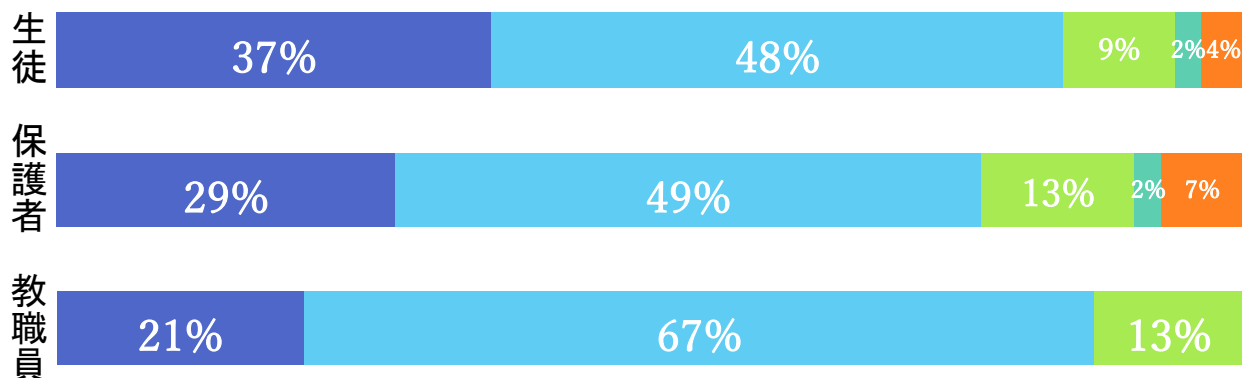
「夢や目標に向かって努力する力」は本校が目指す生徒像の1つです。川崎市の中学生は、自分の将来に夢や目標を持っている生徒の割合が低い傾向があります。学習、学校行事、学級活動、部活動それぞれの活動について集団と生徒個人に目標を持たせ、達成に向けて努力することを指導するように努めてきました。

「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒は約79%で、昨年度より4ポイント減少しましたが、市の平均と比べて比較的高い割合となっています。保護者は約82%、教職員は92%でそれぞれ昨年度より大きくポイント増加しました。しかし満足できる数字とは言えません。「どちらかというそうと思わない／そう思わない」の回答した保護者が18%、教職員が8%いることから、生徒にさらに目標に向かって努力する姿を望んでいることが感じられます。次年度も引き続き、自己実現が図れる資質能力の向上を目指して行きたいと思えます。

「確かな学力が身につく学習活動の推進」に関して

⑩授業（主体的に学習に取り組む態度）

生徒	保護者	教職員
自分は、意欲的・主体的に授業に取り組んでいる	お子さんは、意欲的・主体的に授業に取り組んでいる	生徒は、意欲的・主体的に授業に取り組んでいる

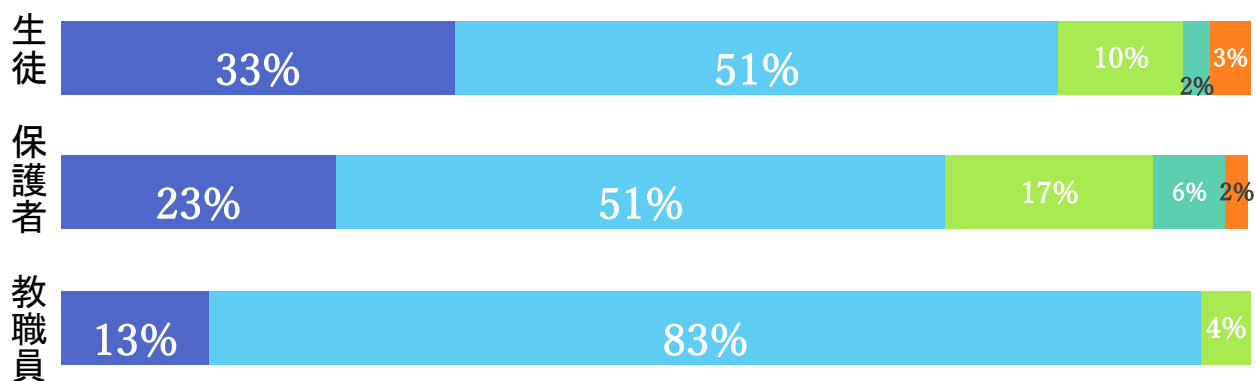


「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が85%で昨年より1ポイント増加していますが、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した生徒が11%で、昨年より2ポイント減少しました。昨年は約7人に1人の生徒が授業に意欲が持てていない状況でしたが、約9人に1人の割合に減少したことは良かったと思います。一方、昨年度25%の教職員が生徒が意欲的、主体的に授業に参加していないと感じていることから、今年授業改善を図ったことから、12ポイント減少し13%の数値まで下がることとなりました。UD・UDLを土台とした授業づくりの実践が効果を表しつつあると実感します。

来年度もUD・UDLを土台とし、個別最適な学びの実現を目指し、生徒が意欲的・主体的に学習に取り組む姿勢を育成したいと考えます。

⑪授業（確かな学び）

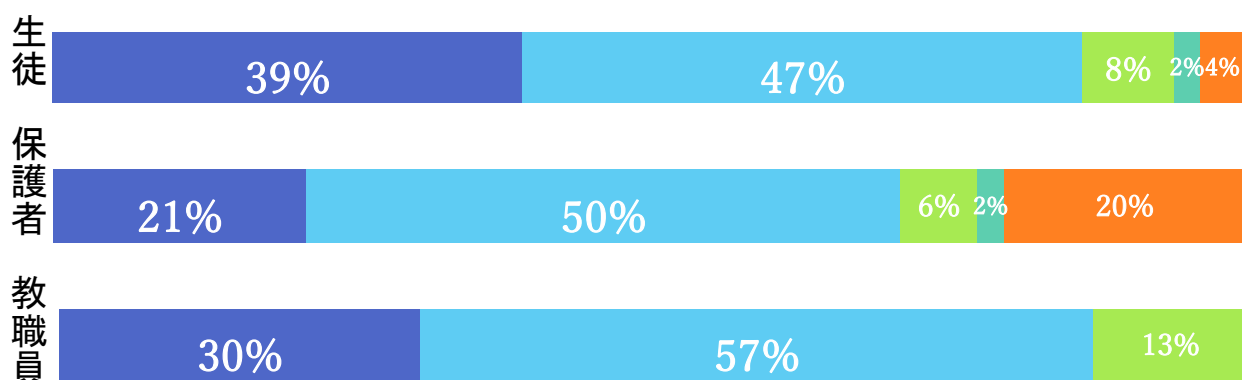
生徒	保護者	教職員
自分は、授業の内容を理解し、知識や技能を身につけている	お子さんは、授業の内容を理解し、知識や技能を身につけている	生徒は、授業の内容を理解し、知識や技能を身につけている



「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が84%と昨年とまったく同様の結果でした。その一方、教職員は昨年度の96%の回答で昨年度より21ポイントも増加しています。生徒が「わかった」と実感できる授業を目指していますが、12%の生徒、23%の保護者が、「どちらかというと思わない／思わない」と回答していることから、さらにわかりやすい授業を目指したいと思います。今年度も定期テスト前や長期休業中に学習相談会を開き、生徒の学習支援を図ってきました。UDLを授業に取り入れ、授業の中で生徒自身に目標を持たせ、それぞれが主体的に授業に参加できるように授業改善をしていきます。

⑫授業（先生について）

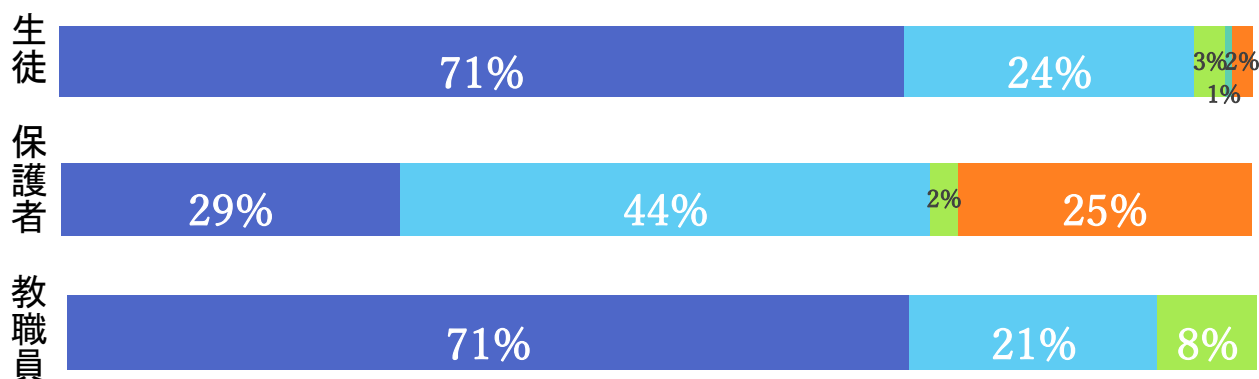
生徒	保護者	教職員
先生は、楽しく丁寧でわかりやすい授業を行っている	先生は、楽しく丁寧でわかりやすい授業を行っている	自分は、楽しく丁寧でわかりやすい授業を行っている



「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が86%で、昨年より3ポイント増加し、概ね楽しく授業に参加できていることが分かります。一方、「どちらかというと思わない／思わない」の回答が生徒は昨年より4ポイント減少した10%、保護者は5ポイント減少したの8%に変容しました。教員が生徒に目的意識を持たせ、主体的に授業に臨ませるスタイルで授業を行った成果が表れたと思います。しかしながら、授業に困り感を持つ生徒への教科指導にまだまだ課題があると感じています。より興味関心が高まる授業を実践していきたいと思っています。

⑬授業（学び合い・発表について）

生徒	保護者	教職員
授業中に生徒同士で話し合う機会や、意見などを発表する場がある	先生は、授業中に生徒同士で話し合う機会や、意見などを発表する場を作っている	自分は、授業中に生徒同士で話し合う機会や、意見などを発表する場を作っている

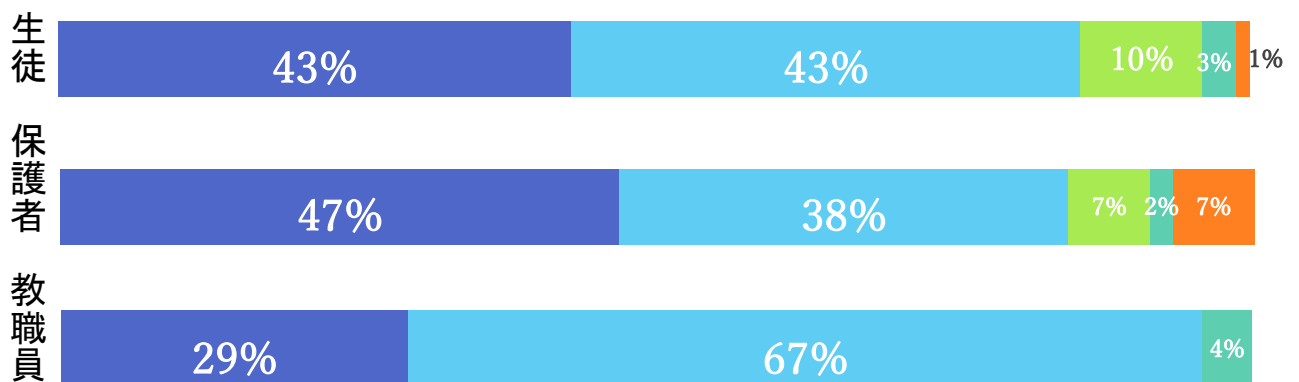


自分の考えを持ち、学び合いに積極的に参加する生徒の育成は重点目標の1つです。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答している生徒が95%、教職員が92%おり、顕著に成果が表れています。授業では少人数のグループ活動が盛んに行われました。学び合い活動が苦手と感じている生徒もいますので、今年度の取組を生かして、さらに生徒が自信をもって発言できる場を作っていきたいと思います。

「心身ともに健康で逞しく生きる生徒の育成」に関して

⑭学級活動・委員会活動

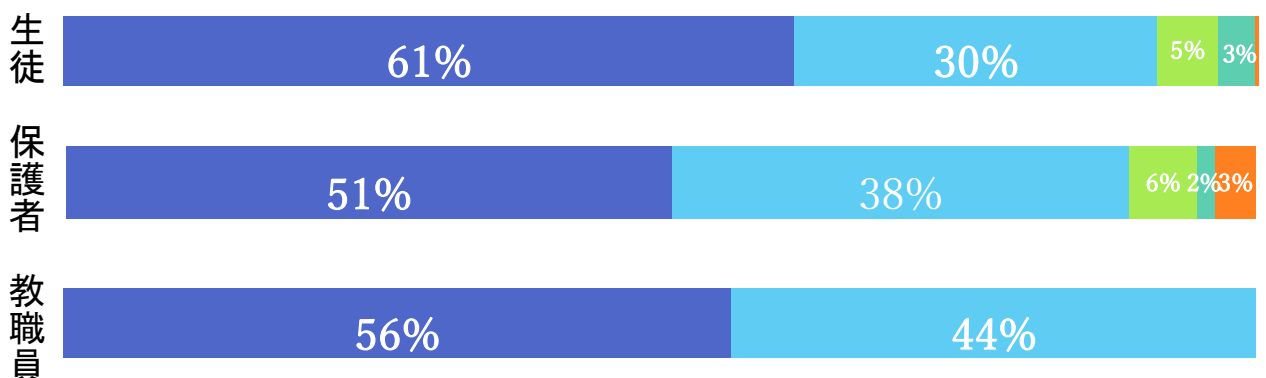
生徒	保護者	教職員
自分は、クラスの活動(学級活動・係活動・清掃活動など)・委員会活動に意欲的・主体的に取り組んでいる	お子さんは、クラスの活動(学級活動・係活動・清掃活動など)・委員会活動に意欲的・主体的に取り組んでいる	生徒は、クラスの活動(学級活動・係活動・清掃活動など)・委員会活動に意欲的・主体的に取り組んでいる



86%の生徒が「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答しています。どのクラスも生徒の自己肯定感、自己有用感を育成するために、係分担等に工夫を凝らして所属感が感じられるように学級経営にあたりました。自分の仕事に責任を持ち、しっかりと行うことができたことが分かります。しかし13%の生徒が「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答しています。教職員の回答では4%なので、生徒の心情を把握しきれいていないと思われます。生徒の気持ちに耳を傾け、改善していきたいと思います。

⑮学校行事

生徒	保護者	教職員
自分は、学校行事(体育祭・文化祭・校外行事など)に意欲的・主体的に取り組んでいる	お子さんは、学校行事(体育祭・文化祭・校外行事など)に意欲的・主体的に取り組んでいる	生徒は、学校行事(体育祭・文化祭・校外行事など)に意欲的・主体的に取り組んでいる

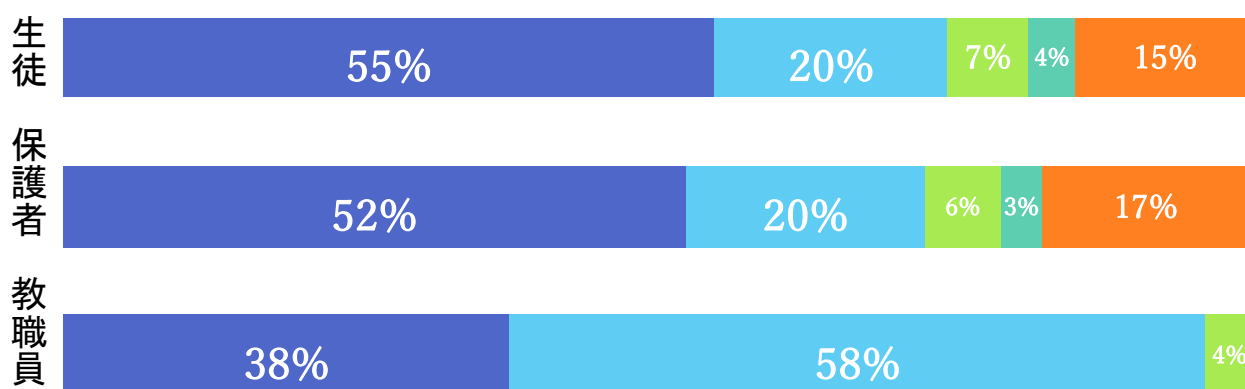


生徒や保護者の「学校の良いところ」の自由記載には「生徒が学校行事に一生懸命に取り組むこと」という回答が多く見られます。今年度は「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した生徒は91%、保護者89%、教職員100%と、とても高い割合でした。

「生徒が主役」というスローガンのもと、生徒が主体的に参加する学校行事をはじめとした特別活動の推進を目指していましたので、たいへんうれしい回答結果になりました。

⑩部活動

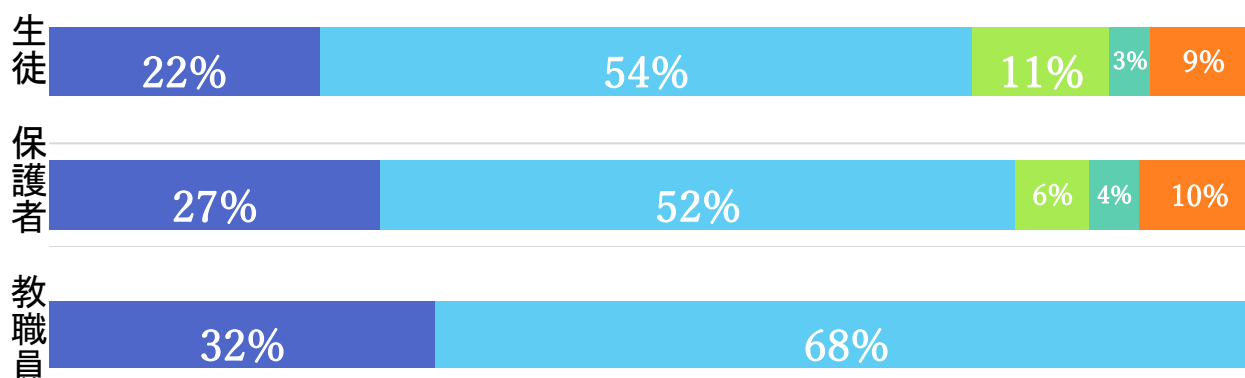
生徒	保護者	教職員
自分は、部活動に意欲的・主体的に取り組んでいる ※未加入者は「わからない」に○	お子さんは、部活動に意欲的・主体的に取り組んでいる ※未加入者は「わからない」に○	生徒は、部活動に意欲的・主体的に取り組んでいる



部活動に未加入の生徒を除くと、88%の生徒が「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答しています。一方13%の生徒が「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答しています。今年度も途中退部の例もあり、約8人に1人の生徒がそのような気持ちでいることに留意し、生徒個々に目を向けた部活動運営をしていかなければならないと感じています。そのためにも、顧問が生徒一人一人との対話を増やし、生徒の想いを大切にしていきたいと考えます。

⑰健康・安全

生徒	保護者	教職員
自分は、ウェルビーイングを高めるよう学校生活を送っている	お子さんは、ウェルビーイング（心身ともに健康で充実した状態）を高めるよう生活を送っている	生徒は、ウェルビーイングを高めるよう学校生活を送っている

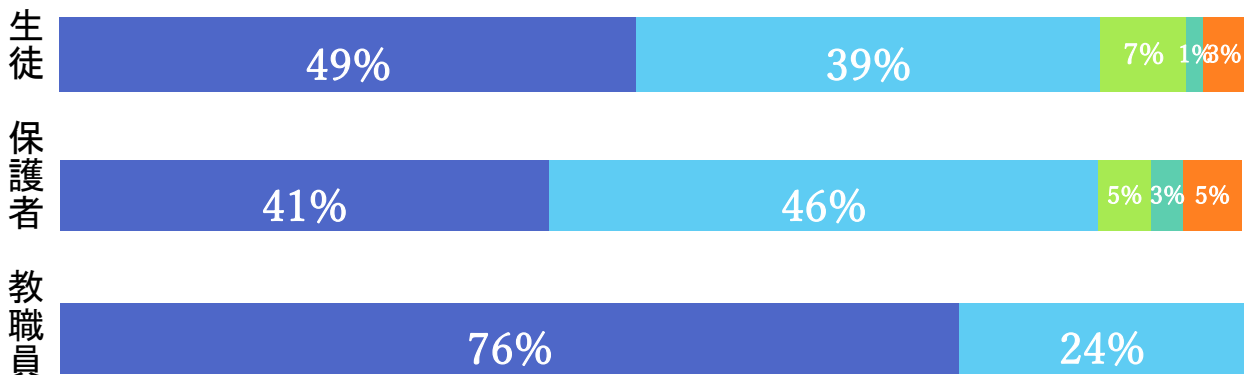


昨年度より2年間、川崎市の人権尊重教育の研究推進校となり、その研究テーマが『日吉中ウェルビーイング』です。『ウェルビーイング』とは「身体的・精神的・社会的に良い状態にあることで、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む概念」と言われ、「だれもが幸せな気持ちで学校生活をおくる」ことができる学校を目指します。生徒は自分たちで実現するための目標を主体的につくり、「自信」「思いやり」「挑戦」の3つの目標を創り、生徒会年間テーマとして活動していきました。「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した生徒は76%でした。一方、教職員は100%の回答で、生徒の取組に高い評価を与えています。この2年間で培った「ウェルビーイング」の風土を今後の日吉中学校の伝統にしていきたいと考えています。

「地域から信頼される、魅力ある学校づくり」に関して

⑩情報発信

生徒	保護者	教職員
便り・通信・掲示物等で、学校の様子や連絡などの情報を知ることができる	学校は、便り・通信・掲示物等で、学校の様子や連絡などの情報を発信している	学校は、便り・通信・掲示物等で、学校の様子や連絡などの情報を発信している

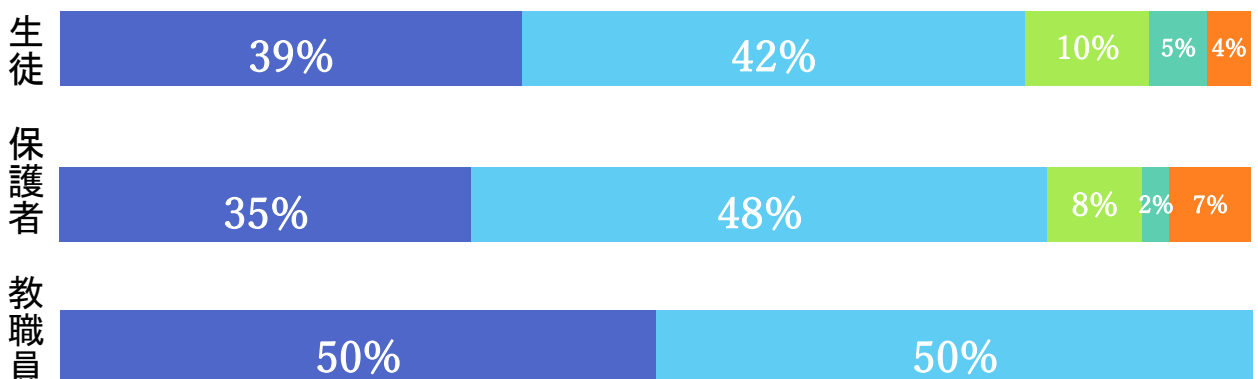


87%の保護者が「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答していただいています。自由記載では「学級通信」や「学年だより」「行事のライブ配信」などでの記載が多かったです。

今後も地域・家庭に信頼される学校を目指し、情報発信に努めていきたいです。

⑪相談体制

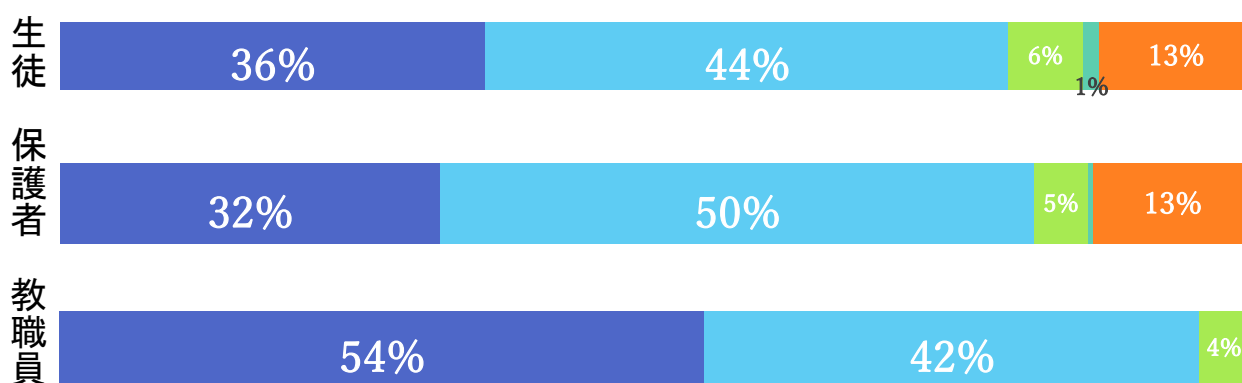
生徒	保護者	教職員
先生は話しやすく、何かあった時に相談できる	自分(保護者)にとって、先生は話しやすく、何かあった時に相談できる	生徒や保護者にとって、自分は話しやすく、何かあった時に相談できる相手である



「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した生徒が81%でおよそ5人に4人が相談しやすいと感じていることはうれしく思います。しかし15%の生徒が「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答していることから現状に満足せず、さらに相談しやすい環境を整えていきたいと思えます。教育相談のアンケートを年3回実施し、さらに担任と生徒の教育相談を3回、保護者を交えた3者面談も2回実施しています。今後は生徒との強い信頼関係を築き、生徒や保護者が相談しやすい環境を構築していきたいと思えます。

⑩保護者・地域連携

生徒	保護者	教職員
学校は、保護者や地域と連携している	学校は、保護者や地域と連携して教育活動を行っている	学校は、保護者や地域と連携して教育活動を行っている



「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した生徒は80%で、保護者は82%でした。今年度は、おやじの会の皆さんが行ってくださる「紅白餅つき」や「梅干しづくり」、地域教育会議が主催でおこなっている「Hi4City フェスティバル」などに、自ら自主的にボランティア参加する生徒が多くなりました。また、今まで以上に多くのPTAの皆さんもボランティア参加していただきました。本校は常に地域の皆さんやご家庭から愛されている学校であると実感しています。今後も主体的に地域参画を希望する生徒の育成を目指します。

「自由記載より」

学校教育活動点検アンケートの自由記載については次のような意見がありました。「生徒」「保護者」に分けて示します。

(1) 日吉中で「良い」と思うことは何ですか？

「生徒」

① 学校の雰囲気・人間関係

◆ 明るい・元気・楽しい雰囲気 78件 (最多) 例：笑いが絶えない。平和・治安が良い

◆ 優しさ・思いやりがある 64件 例：「みんな優しい」「思いやりがある」「いじめが少ない／ない」
「個性を尊重している」

◆ 先生と生徒の関係が良い 59件 例：「先生が優しい・話しやすい」「相談しやすい」「生徒に寄り添ってくれる」「授業が楽しい・わかりやすい」

② 挨拶の文化

- ◆ 挨拶が盛ん 72 件（非常に多い） 例：「挨拶が活発」「毎朝先生が校門であいさつしてくれる」「地域の方にも挨拶できている」挨拶が学校の文化として「根付いている」

→ 本校の大きな強みとして定着している。

③ 行事への取り組み

- ◆ 行事に全力で取り組む 83 件（最多項目） 例：「体育祭・文化祭が盛り上がる」「合唱コンクールが充実」「ブロック活動で縦のつながりが深まる」「団結力がある」「全員が本気で取り組む」

→ 「全力」「団結」「熱量」という言葉が多数。

④ 縦・横のつながり

- ◆ 他学年との交流 61 件 例：「先輩後輩の仲が良い」「学年を超えて仲が良い」「ブロック制が機能している」「小学校からのつながりが強い」

→ 小規模校ならではの強みが顕著。

⑤ 生徒主体の学校づくり

- ◆ 生徒の意見が反映される 48 件 例：「生徒主体で行事を運営」「オレンジソーダなど意見発信の場がある」「ルール変更に生徒の声が反映」「役割が明確で活躍機会が多い」

⑥ ウェルビーイング・人権教育

- ◆ ウェルビーイングへの取り組み 42 件 例：「学校目標として掲げている」「学校全体で意識が高まっている」「『自信・思いやり・挑戦』を意識」「人権フォーラムがある」

→ 学校の理念が生徒に浸透している様子が見られる。

⑦ 授業・学習環境

- ◆ 授業が楽しい・わかりやすい 46 件 例：「話し合い活動が多い」「班活動で意見を出しやすい」「テスト範囲表が早い」「クロームブック活用」

- ◆ 学習環境・施設 32 件 例：「校舎がきれい」「校庭が広い」「武道場がある」「トイレがきれい」「学習室がある」

⑧ 地域とのつながり

- ◆ 地域交流が盛ん 18 件 例：「餅つき・お祭り参加」「地域との関わりが深い」「自然・植物が豊か」

● 「総括」

今回の結果から、「行事に全力」「挨拶が盛ん」「明るく温かい雰囲気」「縦横のつながり」「生徒主体の学校づくり」「ウェルビーイングの浸透」が本校の大きな強みであることが明確に表れています。

特に、「行事への熱量」「挨拶文化」「人間関係の良さ」は他校との差別化ポイントとなる特徴です。

「保護者」

1. 教職員の姿勢・指導体制について（38件）

最も多く寄せられたのは、先生方の生徒への寄り添い、熱心で丁寧な指導に対する評価でした。

例：「生徒一人ひとりを大切にしている」「相談しやすい雰囲気がある」「校長先生・教頭先生を含め、管理職の先生方の姿勢が素晴らしい」「褒めて伸ばす指導」「柔軟な対応」「部活動にも熱心」「先生同士の連携が取れている」

→学校全体で「生徒第一」の姿勢が感じられるという意見が多数ありました。

2. 生徒の様子・校風について

（1）穏やかで落ち着いた雰囲気（23件）

例：「荒れていない」「非行が見当たらない」「揉め事が少ない」「安心して通わせられる」「平和で落ち着いている」

→学校全体の安定した雰囲気を評価する声が多く見られました。

（2）生徒同士の仲の良さ（21件）

例：「学年を超えて仲が良い」「先輩後輩の関係が良好」「男女問わず仲が良い」「小学校からのつながりが活きている」

→一小一中の特性を活かした温かい人間関係が築かれているとの意見がありました。

（3）挨拶がしっかりしている（15件）

例：「生徒の挨拶が気持ちよい」「保護者にも挨拶できる」「先生方も校門で挨拶している」

→礼儀正しさや明るさを評価する声も多く寄せられました。

3. 生徒主体の取り組み・教育方針（14件）

例：「生徒主体の学校運営」「自主性を尊重する姿勢」「意見を取り入れる風土」「人権フォーラム等を通じた成長」「活躍できる機会が多い」

→生徒の主体性や自己肯定感を育む教育活動への評価が見られました。

4. 学校行事・部活動について

（1）学校行事の充実（13件）

→体育祭、文化祭、合唱コンクールなどの行事が感動的で、生徒が一生懸命取り組んでいる姿に好感を持つ意見が多くありました。

（2）部活動の充実（9件）

例：「熱心な指導」「活動が盛ん」「勉強との両立への配慮」

→部活動を通じた成長を評価する声もありました。

5. 学校規模・環境面

（1）小規模・一小一中の良さ（17件）

例：「少人数で目が行き届く」「アットホームな雰囲気」「9年間のつながり」「ちょうどよい規模感」
→規模の特性を活かしたきめ細やかな教育環境が評価されています。

(2) 情報発信の充実 (11件)

例：「学年通信」「写真付きのお便り」「行事のYouTube配信」
→保護者が学校の様子を把握しやすい点が好評でした。

(3) 校内環境の整備 (8件)

例：「校舎内がきれい」「花壇や緑が整備されている」「清掃が行き届いている」
→安心して通える環境づくりが評価されています。

6. 地域との連携 (9件)

例：「地域交流」「おやじの会」「地域課題への取り組み」
→学校と地域がつながっている点も強みとして挙げられました。

● 「総括」

本校の強みとして特に顕著だったのは、「教職員の生徒への寄り添いと熱意」「穏やかで安心できる校風」「生徒同士の良好な人間関係」「小規模校ならではのきめ細やかな教育環境」であることが明らかになりました。多くの保護者が「安心して通わせられる学校」「子どもが楽しく通っている学校」と感じており、学校全体で築かれている温かい雰囲気が大きな魅力となっています。

(2) 日吉中が「もう少しこうなるといい」と思うことは何ですか？

「生徒」 回答総数：209件 「特になし・なし」：56件 (26.8%)

① 施設・設備に関する意見

◆ 体育館への冷暖房設置 22件 (最多)

例：「体育館にエアコンを設置してほしい」「暑さ対策を強化してほしい」「朝会や行事で体調不良になることがある」
→令和10年度に体育館の冷暖房工事が計画されることになりました。

◆ Wi-Fi環境の改善 14件

例：「教室によって接続が弱い／つながらない」「武道場・移動教室でも安定して使えるようにしてほしい」

◆ 校舎設備の改善 (計25件)

例：「エレベーター設置」「渡り廊下の改善 (屋根拡張・2階以上にも設置など)」「給水機の増設」「トイレ改善 (臭い・広さ・清潔)」「その他 (体育倉庫、テレビ修理など)」

② 安全・安心に関する意見

◆ いじめ・嫌がらせ・窃盗対策 28 件（非常に多い）

例：「靴・インソールがなくなる」「いたずら・なりすまし」「暴言が怖い」「防犯カメラ設置希望」
「安心して過ごせる環境づくり」

◆ 治安・地域安全 6 件

例：「地域の犯罪や不審者への不安」「事件が増えている印象」

③ 行事・交流活動

◆ 他学年交流の増加 17 件

例：「縦のつながりを深めたい」「定期的に交流する機会がほしい」「先輩後輩との関わりを増やしたい」

◆ 行事の充実 18 件

例：「体育祭練習期間を長くしてほしい」「文化祭をより高校に近い形で／屋台など」「行事回数を増やす・活発にする」

④ 部活動に関する意見 21 件

例：「部活の種類を増やしてほしい（軽音楽部・演劇部など）」「活動時間を増やしてほしい」「冬の活動時間延長」「活動場所が狭い」

⑤ 給食・時間配分

◆ 給食関係 12 件

例：「給食時間を 5～10 分延ばしてほしい」「冷たい／おいしくない」「レパートリー増加」「季節の献立を出してほしい」

◆ 昼休み・掃除・生活時間 15 件

例：「昼休みを長くしてほしい」「簡単清掃の改善」「掃除時間を増やしたい」「学活時間を減らしてほしい」

⑥ 授業・評価制度 24 件

例：「テスト形式の統一」「評価基準を明確にしてほしい」「自己学習型授業が多い」「PC 使用を減らしてほしい」「質問時間を増やしてほしい」「授業の無駄な時間を減らしてほしい」

⑦ 校則・服装 18 件

例：「ジャージ登校を認めてほしい（冬・朝練含む）」「校則をやや緩和してほしい」「服装ルールを毎年配布してほしい」「武道場へ上履きで移動できるように」

⑧ 人間関係・学校の雰囲気 31 件（最多）

例：「先生の態度のばらつき」「男女対応の差」「一方的な指導」「生徒が主体的に発言しにくい」
「メリハリをつけたい」「挨拶を元気にしたい」「安心して過ごせる学校にしたい」

● 「総括」

約 27%の生徒が「特にない」と回答しており、現状に一定の満足感も見られます。一方で、「安心安全の確保（いじめ・窃盗対策）」「暑さ対策（体育館冷暖房）」「Wi-Fi 環境の改善」「部活動の充実」「他学年交流の強化」「授業・評価の公平性」が強く求められています。今後は「安心して過ごせる環境整備」と「学校生活の充実（行事・交流・部活動）」を両立することが、学校評価向上の鍵になると考えられます。

「保護者」

① 成績評価・内申に関する不安・透明性について 14 件

例：「内申が厳しい／取りづらい」「評価基準が分かりづらい（特に主体的に学習に取り組む態度）」
「納得感のない評価」「テスト平均点や順位を公表してほしい」「技家・保体などテスト未実施の理由説明不足」「受験を見据えた早期の進路指導を希望する」
→ 評価の透明性や説明の充実を求める声が多く見られました。

② 授業の質・指導方法への意見 8 件

例：授業が単調／教科書の読み上げ中心」「採点基準が不明瞭」「教員によって質の差がある」
「授業中の私的な話が長い」「探究型学習を増やしてほしい」「生徒アンケート等による授業改善を希望」

③ 教員の負担・部活動の在り方 15 件（最多）

例：「顧問のオーバーワークが心配」「土日の帯同負担」「外部指導者導入の提案」「PTA・地域ボランティア活用提案」「部活動が厳しすぎる／遠征が遠距離」「部活の種類を増やしてほしい」「男女共通化の希望」
→ 教員の働き方改革と部活動の持続可能性に関する意見が多く寄せられました。

④ 情報発信・連絡体制 13 件

例：「学級通信が出ていない」「連絡ミスや訂正不足」「ミマモルメでの配信希望」「予定表を早めに出してほしい」「親宛にデジタル配信してほしい」「情報セキュリティ強化希望」
→ デジタル化と正確性向上への要望が目立ちました。

⑤ 行事・授業参観の機会 10 件

「行事を土日で開催してほしい」「体育祭規模を戻してほしい」「授業参観回数を増やしてほしい」
「部活動の様子を見る機会がほしい」「修学旅行日程の見直し希望」

⑥ 施設・設備環境 9 件

例：「体育館・武道場の冷暖房整備」「空調改善」「更衣室導線の改善」「施設の地域開放提案」

⑦ 学習支援の充実 6 件

例：「宿題が少ない」「補習の充実」「切磋琢磨できる環境づくり」「支援級の学習支援」

⑧ 生活面・校則・身だしなみ 5 件

「髪型の指導」「女子のタイツ・ハイソックス許可」「セーター導入」「給食時間が短い」

⑨ 安全・健康面 5 件

「猛暑時の熱中症対策」「修学旅行の自転車安全対策」「重い荷物の改善」「情報管理の徹底」

⑩ 個別指導・相談体制 7 件

「生徒が相談しにくい雰囲気」「保護者面談時間の不足」「一部教員の不適切指導の指摘」

「個々への丁寧な指導希望」

⑪ 地域連携の強化 3 件

例：「地域との関わりをさらに活発に」「地域人材の活用」

● 「総括」

成績評価・内申の透明性、教員の負担軽減と部活動の在り方、情報発信の改善、行事参観機会の拡充に関する要望が比較的多く見られました。

一方で、「特にない」「満足している」との回答も一定数あり、学校運営全体への信頼が前提としてある中で、さらなる改善を期待する建設的な意見が多いことが特徴です。今後は、評価基準の明確化と説明の充実、働き方改革と外部連携の検討、デジタル化による情報共有の強化、施設環境整備の検討が重要な検討課題と考えられます。

多くのご意見をいただきありがとうございました。今後の学校運営に生かしていきたいと思っております。